

受け継がれる自然の恵み

●発行日 平成29年(2017年)7月1日 ●発行所 朝倉市・朝倉市環境アクション協議会 かべ新聞編集委員会 〒838-0062 福岡県朝倉市堤4-6 電話 0946-22-1111 (朝倉市 環境課) ●印刷 (株)四ヶ所



鵜

鵜飼の鵜は、河鵜ではなく、海鵜を捕獲し、時間をかけて川にならし漁を行います。海鵜は、喉が大きいのでたくさんの魚を飲み込むことができます。鵜飼は、5月20日～9月下旬に行われています。



原鶴で続く伝統の鵜飼

原鶴では、伝統的な漁としての鵜飼が行われており、鵜匠と鵜が、一体となり漁をする光景を見ることが出来ます。

ライトに映し出された水面から鵜が潜り魚を啜り出して出てくると屋形船に乗った乗客たちの歓声が聞こえてきます。

夜のとぼりの筑後川から悠然と漁をする鵜たちを見てると古の先人たちの知恵に思いをはせ、時が止まったような不思議な感覚を覚えます。

鵜飼の歴史は古く、古事記や日本書紀にその記述を見ることが出来ます。

7世紀に書かれた「隋書倭国伝」には、北部九州で鵜飼が行われていた記述がありますので、筑後川では、昔から行なわれていたと思われる。

最初、鵜飼は、徒歩鵜といい、片手で鵜を操り、もう片手で、松明を持って、行われていました。

現在のような舟鵜飼は、江戸時代に始まったといわれています。



花火大会

原鶴温泉花火大会は、鮎漁の解禁日以降に行われる夏の風物詩です。3千発の花火が初夏の夜空を彩ります。

毎月第2週は
きらきら美花美化
週間
さくらちゃん

掲示期間 平成29年7月1日～平成29年10月31日まで



歴史と自然の宝庫「原鶴」エリア

トロトロした肌触りが特徴的なpH8.5以上の弱アルカリ性単純泉と単純硫黄泉。毎分3000L、福岡県随一の湧出量、「原鶴の湯」は、朝倉市が誇れる「自然からの贈り物」です。

「鵜飼」と「W美肌の湯」はこの地の宝物。もしかして齊明天皇も筑後川の鮎を食べたかもしれませんね。

原鶴温泉旅館協同組合 女将 会長
森實 美知子さん

シリーズ 山城 第2回 古処山城



水舟



古処山山頂

古処山山頂(標高859m)一帯に広がっていた戦国時代の山城で、筑前の中・南部の一帯を支配した秋月氏の本城でした。登山道の8目には、一日千人の兵の喉を潤したといわれる「水舟」と呼ばれる湧水のある場所があり、山の頂上近くには、大きな岩の「大将かくし」や「奥の院」等があります。

花いっぱい運動



毎年、6月と11月に県道甘木停車場線や主要地方道甘木田主丸線に地元の人や商店の店主、企業、学校等が参加して街路地に花苗を植えています。通りに花があることで、散歩や通学、通勤中の人たちの目を楽しませています。